

事業報告

「やさしい日本語」講演会

日時：令和2年9月12日（土） 14：00～16：00（別府市）

令和2年9月13日（日） 13：00～15：00（中津市）

会場：別府市：別府ビーコンプラザ 国際会議室

中津市：中津市教育福祉センター 多目的ホール

参加者：別府市：65名

中津市：31名

<講演趣旨>

県内在住外国人と地域住民とのコミュニケーションの拡大を図るため、社会教育施設を核とした「やさしい日本語」の普及や交流活動の取組を推進する。

地域住民を対象とした「やさしい日本語」に関する講演会を開催し、その普及と啓発を図り、在住外国人を地域の一員として積極的に受け入れていく意識を醸成する。

<講演内容>

【講演】 「多文化社会を生きるー『やさしい日本語』というコミュニケーション」

講師：立命館アジア太平洋大学言語教育センター長／教授 本田 明子 氏

「やさしい日本語」の普及と、地域住民と在住外国人との交流促進への啓発を目的に実施しました。日本人が伝えたいことと外国人が受け取る内容に大きな差異を生じることが多い原因として、日本語特有の漢字の多さだけでなく、あいまいな表現を多用することや、行間を読むことを受け手に求めること等があること、外国人に対して指導するような態度になることが多いことなどがあげられる。「やさしい日本語」を使用することによって、日本語を「易しく」表現（はっきり・最後まで短く）して、相手を思いやりながら「優しく」伝えることの重要性や有効性が参加した方々に伝わりました。

<当日の様子（写真）>

【別府市会場 9月12日（土）別府ビーコンプラザ 国際会議室】

主催者あいさつ

県立図書館 宮迫 敏郎 館長

講師

立命館アジア太平洋大学 本田 明子 教授

会場のようす



【中津市会場 9月13日（日）中津市教育福祉センター 多目的ホール】

主催者あいさつ

県立図書館 森山 貴仁 副館長

講師

立命館アジア太平洋大学 本田 明子 教授

会場のようす



＜参加者感想＞

- 普段、意識せずに使っている自分たちの日本語を見直し、相手を思いやるよいきっかけになった。
- 留学生と話すときもっと気をつけようと思う。留学生への資料はふりがなだけでなくわかりやすい日本語を意識しようと思った。
- 「やさしい日本語」は外国人のためだけでなく、接客をする日本人が緊張せずに話せるようになったり、子どもや高齢者に対して相手のことを思って話したりする、という効果がある点が印象に残った。
- 「やさしい日本語」は、相手（日本語を話す外国人）を思いやり、わかりやすいように話すことが大切であり、「はさみ（はっきりと 最後まで 短く）」は、日本語を考える立場から、とても重要だと感じた。
- 「やさしい日本語」の考え方を広めること、実際にいろいろなところで使うことで、外国人とのコミュニケーションを深めて、外国人にとっても日本人にとっても住みやすい社会にしていくことが大事だと思った。
- 学校の文書で使える「やさしい日本語」を考えていきたい。
- 「自分の言いたいことを知る」は実感する。日本語の特質や日本文化と多文化との差がコミュニケーション上大切なポイントだと思う。
- 「やさしい日本語」を使うことは、母語である日本語をいかに相手に伝えるか、言葉を引き出して組み立てるといった自分の日本語の学び直しでもあると感じた。
- 外国の人と対するとき、やはり構えていたような気がし、反省した。「やさしい日本語」は、使うときの1つのバリエーションである。相手へのやさしい気持ちを忘れず、相手に伝わる言葉を磨き、使っていきたい。
- 県立図書館主導で、県内の多文化共生が進んでいくことに大きな期待をもっている。県図書→市町村図書館でも繰り返し展開されると、市民の理解が深まる。